

「而二不ニモデル」を概念にした「令和モデル」構想

—安寧空間創製システムで世界の共和・共生へ—

"REIWA model" concept based on the concept of "NINIFUJI model"

-To the peace and harmony of the world with the ANNEI Space Creation System-

沢 恒雄[†]
SAWA TSUNEO

1. はじめ

糸川英夫博士は、地球には人類 100 億人を養う資源はないとし 22 世紀に人類はいないと主張した[14]。その課題に対しての解決のヒントとして、稿者は、安寧空間創生システム[1~9]を提唱してきた。先行研究について概要を示す。

① **環境・社会・経済のトリレンマの緩解[5]**；諸悪の根源は、我欲と依存症に取りつかれた先進国の経済にある。経済は、「経世済民」の「世を経め民を済う」という本来の意味を喪失した。利益追求と依存症的欲望の成長のみが肥大化し環境を壊し、社会を歪ませた。即ち、環境を壊滅的に汚損・破壊して生物の温存を抑制している。また、社会の格差は、絶望的な限界にある。实体经济は、本来は触媒の機能でしかない「金銭」を「商品」として売買し醜く巨大化した怪物になった。環境・社会・経済のトリレンマの解決はすでに不可能であるため緩解法とした。即ち、「生物・人類温存」と「言語・文化温存」の2大戦略である。それらの対策を「工業化率通減」と「人口増加率通減」とした。システム論としてモデルベースを基軸とした知財管理システムを提案した。[9]

② **世界日本学[6]**；国際日本学から世界日本学へ変遷した。「世界の日本」から「日本の世界」という意図を持たせた。

③ **安寧空間創生システム[7~9]**；WBSCS(Well-Being Space-Construction System)は、環境・社会・経済のトリレンマを緩解するための知財(知識・知恵・智謀)を管理・運用・保守する情報システムである。

④ **而二不ニシステム[1]**；諸国の永遠法・基本法とされ戦争後の勝者の過大な罰則が禁じられている。特に国体・主権・憲法・言語・文化・文明を棄損することを禁じたウェストファリア条約やハーグ陸戦7条約がある。日本は、敗戦から75年経つが、いい加減に自ら独自の意思で国の自立と自律を計り、普通の国になるべきである。修正主義歴史ではなく、当時の極秘機密書類が公開されている。今こそ厳然たる「事実」による歴史を顕在化して、隷属国家の現実の近現代と双対で確定して公示すべきだ。そこで現実的な従属国家の歴史と新規に公開された事実に基づく歴史を正規な近現代史と双対(而二不ニ)で総括する。

即ち、[国體・主権・憲法・教育・言語・歴史・文化・文明]をデジタル・アーカイブとして纏め上げる。ここで日本は、やっと普通の国になれる。日米の安全保障問題も解決する。日米の共同連携で実践する。太平洋の安全保障は、継続することを基本とするが、地位協定や日本の独自の自立に向けた政策が必要だ。

以上、日本がトリレンマ緩解のリーダーとし実践するための前提条件とすべきである。

⑤ **GMB(Global Model Builder)から WBSCS へ[9]**；GMB は、思考支援・合意形成支援システム及合意形成支援システム支援環境を実現するモデルベースとして開発した。多層・多重・多様な複雑な現実をシステム化するのに APL 言語を使用した。流通業や薬業の分野に応用し、GMB を発展させ WBSCS とした。

2. 普通の国になる前提として而二不ニモデル

① **[自虐史観歴史]と[事実準拠歴史]の双対近現代歴史**；人類は、哲学を喪失して科学技術に縋って過度な依存症に陥ってしまった。科学技術が哲学を破壊して、人・組織・国を統治・制御する方法論を阻害してしまった。トリレンマの解決はすでに不可能で哲学、特に人・組織・国が倫理道徳を具備することがトリレンマ緩解(ゆるめる)・艦戒(いましめ)の方略とした。

日本の先人の良き文化である国體・文明・文化の核である社会倫理(教育勅語)等を「世界日本学」としそのモデルを考察した。日米戦争前後の「事実による歴史」から「而二不ニモデル」を提案した[1]。フーバー大統領回想録と関連する極秘外交文書の公開が根拠である。世界にその概念を啓蒙し浸透させる。日本の文明・文化資産を世界に浸透させることで人類にとって「悪=トリレンマ」である癌を除去することが方略だ。システムには WBSCS を適用する。即ち、「幸福度」を前提にした安寧空間創製システムである[9]。そのシステムの実践で人類・生物・言語・文化が温存される可能性がでる。安寧空間創生の施策実践は、日本のみが可能である。即ち、唯一の被爆国であること、文化・文明・歴史・経済大国であることが理由である。

② **保守思想の重要性**；保守とは、現状維持のことではない。立場として平衡感覚を重視する。「自由・平等・博愛・合理」の悪が近現代の社会に呪いをかけた。この理想主義は現実の裏づけが乏しく、「秩序・格差・競合・情操」の現実が無視されている。理想を追求しすぎると「放縦・偽善・悪平等・屁理屈」に陥る。必要なのは、理想を内包する現実であり理想と現実の平衡は、日本国として規範で「活力・公正・節度・良識」の四幅対である。即ち、[国體・主権・憲法・教育・言語・歴史・文化・文明]をデジタル・アーカイブとして纏め上げることで普通の国になる。

3. 令和モデル

而二不ニシステムの重要な概念の具体的なモデルを提唱する。国體・主権・憲法・教育・歴史・日本語(言霊)・文明・文化を白井[40]の国體の構造に加え現実と事実の双対の近現代史にする。特に日米戦争の実態が従来の歴史の根底から完全に覆る事実が判明した。フーバー研究所の西鋭夫の研究成果やフーバー元大統領の回想録で、日本は完全に自衛の戦争をしたことが明白になった。東京裁判に代わり日本独自で自国の戦争責任を当時の国際条約を規範として裁判を実施すること。勝者の誤った裁きの事実や自虐思想で日本人を洗脳した米国の在り方を事実として総轄する。これに対し、保守の立場から元来の日本の國體から文明・文化までの実態日本の近現代史と双対モデルとして総括し公示する。責任関係には訴求せず双対歴史とする。「捏造の反日歴史や長き米国従属国歴史」と「実態の歴史」は、これでは正される。そして、世界の共存と共和のための安寧空間を世界に定着させる。節目に令和時代前半に総括・公示し、後半を実践・評価の期間とする。

[†] 遊工学研究所 川崎市麻生区 Yre00736@nifty.ne.jp

4. 安寧空間創製システムの各種の手法

4.1 包括的知財管理・運用システム

[1]~[9]等の研究を始めて20数年になる。

GMAISは、思考支援、集団意思決定支援や合意形成支援のシステムである。知財は、データ・ケース・モデル・シナリオなど、知識・知恵・智謀を統括的に管理する。ICT技術のDigital DiplomacyやDigital archiveは、必須のツールと活用すべきである。令和モデルの啓蒙・広報・理解・認識・政策化・実践・評価・省察による知識や知恵の獲得の過程で利活用される。

4.2 令和時代に普通の国になる方略

実践する方略について述べる。

① 次世代を担う若者にチャンスと経費資源を渡すこと；

チマチマ小出しにしないで必須資源を予算化すべきであろう。

ノーベル賞受賞の老人をなやませることではない。

② 倫理委道徳教育の保守的観点を織り込む；川崎市登戸で

5/28に痛ましい事件があり、犯人は、働盛り世代の50代だ。自裁したければ迷惑をかけない手段で自裁すべきだ。手段はいくらでもある。尊属殺人が頻発を抑制するには松陰[13]や教育勅語[15-17]の精神を教育すべきである。倫理道徳や日本人の心・魂を確実に基礎教育ですべきだ。加えて言霊の日本語もしっかりと教育する必要がある。自然言語処理が最近のAI技法で、翻訳も更に精度を挙げられる。数億円で実用的で多言語と日本語の翻訳機能は実現する。

③ 令和モデルの開発順；日本が普通の国になるのは、ここまで墮落してしまうと至難の業であろうが、一世代前の立派で勇猛な先人の遺産を広く継承して頑張るべきである。憲法のうち、天皇制と主権を確立させただけの仮憲法でよい。日米戦争での英霊でまだ、靖国神社に祀られていない英霊が115万柱もいる。戦場で食料と戦争資源が枯渇した状況下での闘争は想像を絶する。当時と現政治家や官僚の不作為の罪を思うと胸が痛む。

日本国憲法は、お蔵入りにする。保守的な日本国が策定できたら新憲法を制定するだけでよい。重要なのは國體だ。

④ 慣習法の採用；慣習法の適用期間は、欽定憲法とGHQ憲法のうち、天皇と主権の確立だけの仮憲法でよい。慣習法によるだけの知識・知恵は現在でも十分な蓄積がある。「群書類」なども参考となる。急な改革は、必ず破綻する。あくまで先人の良い遺産を慎重に選び採用することが最重要である。爺婆人口急増と次世代の人口減に対しては、道州制と行政機関の制度的で物理的な統合化が必要である。大災害に耐えうる環境、街・町に安寧空間を創設する。さらに不必要な移民は絶対に受け入れるべきではない。ヨーロッパ諸国が過去の植民地政策の贖罪として多くの移民を受け入れて多くの課題に苦悩している。

4.3 國體・主権・憲法・教育・歴史・日本語・文化・文明を一式

① 國體；平成の30年間でこの課題は、日本人の精神構造が溶融して更に困難な仕事になった。日本国の元首は、象徴天皇の時代でも継承している[40]。戦後のGHQも「国体護持」を唯一の条件として敗戦を受け入れたのだ。「戦後の国体」は、天皇制というピラミッドの頂点にアメリカが鎮座している。日本国では、天皇と日本人は一体で、GHQ憲法でも天皇は、日本国の元首だ。

② 憲法；國體や主権と並行的に基本構想を2年で確立することが重要である。WGIP(War Guilt Information Program)の存在を理解し、それが東京裁判、自虐史観、憲法9条、プレスコードの4本柱からなり、戦争に負けた日本人に「日本は悪い国だ」と贖罪を植え付けられた。洗脳されたこれらを払拭することが前提である。

西部[31]は、経済・社会・政治・文化の4分野の重要な108の概念を品質的な内容でまとめている。正しく理解してから討議・

確定をすべきである。大和魂(神)は、日本と我々日本人の生身の人体に宿っていることを確信しよう。

5. 結言

日本が、普通の国になるということは、吉田松陰・三島由紀夫・小室直樹・西部邁などに共通する思想(大和魂)である。即ち、GHQ憲法による米国従属から自立と自律することに対する熱い思いである。「双対・日本近現代史」を令和時代に確立することが人類存続の大前提であり、また必須条件である。今、世界が諸相で混沌・混迷・混濁した状態であり、人類の存亡が懸かった時期でもあり日本が諸悪のトリレンマを緩解・艦戒すべきである。

令和時代の次の節目には、目的が達成され、世界から信頼され、尊敬される国・国民となる。今、日本が、世界を安寧空間の次世紀にすべきで時期である。

参考文献

- [1] 沢恒雄, “日本の近現代史の「二不二モデルの構想」”, IPSJ・DC/NLC, 2018/9
- [2] 沢恒雄, “経営情報システム論第5章”, 白桃書房, 1997.
- [3] 沢恒雄, “経営情報管理論第5章”, 白桃書房, 1997
- [4] 沢恒雄, “グローバル・モデル・アーキテクチャ GMA モデルによる情報システム”特願平8-360025, 1996/12/30
- [5] 沢恒雄, “2大戦略によるマルチトリレンマ艦戒(緩解の研究)”, FIT015, 2015
- [6] 沢恒雄, “「世界日本学」の提案”, FIT015/o064, 2015.
- [7] 沢恒雄, “世界日本学による安寧空間創製の研究:WBSCS”, FIT016/N012,
- [8] 沢恒雄, “安寧空間創生システムにおける包括的評価システムの研究”, FIT017/CN002, 2017
- [9] 沢恒雄, 安寧空間創製システム: WBSCSの研究, SIG-SWO-039-01
- [10] 小室直樹, “悪の民主主義”, 青春出版社, 1997
- [11] 小室直樹, “日本国民に告ぐ”, クレスト社, 平8
- [12] 小室直樹, “日本人のための憲法論議”, 集英社, 2006
- [13] 小室直樹, “歴史に見る日本の行く末”, 青春出版社, 1997; p.288
- [14] 糸川英夫, “人類は21世紀に滅亡する”, 徳間書店, 1994
- [15] 伊藤哲夫, “教育勅語の真実”, 致知出版社, H23
- [16] 沖田行事, “日本国民をつかった教育”, ミネルヴァ書房, 2017
- [17] 清水馨一郎, “教育勅語のすすめ”, 日新報道, 2007
- [18] 関野通夫, “日本人を狂わした洗脳工作”, 日新報道, 2007
- [20] 日下公人, “絶対、世界が日本化する15の理由” (株)PHP研究所,
- [21] 日下公人, “人間はなぜ戦争をやめられないのか”
- [20] 西部邁, “戦争論/絶対平和主義批判”, 日本文芸社, 1991
- [31] 西部邁, “昔、言葉は思想であった。語源から見た現代”, 時事通信社, 2009
- [32] 西部邁, “保守の真髓”, 講談社現代新書 2017
- [40] 白井聡, “国體論-菊と星条旗”, 集英社新書, 2018
- [41] 小堀桂一郎, “東京裁判日本の弁明”, 講談社学術文庫, 1995
- [42] 牛村圭, “戦争責任論の真実-戦後日本の知的怠慢を断ず”, PHP, 2006
- [43] 施光恒, “リベラリズムの再生”, 慶應義塾大学出版会, 2003
- [44] 岩沢雄司, “国際条約集”, 有斐閣, 2018 p.859 ハグアリア条約
- [45] 岩沢雄司, “国際条約集”, 有斐閣, 2018 p.705 ハグアリア条約
- [46] 加瀬英明・馬淵睦夫, “グローバル主義を超えて自立する日本”, 勉誠出版, 2019/4
- [50] 藤井聡, “政の哲学”, H26
- [51] 三浦瑠麗, “21世紀の戦争と平和”, 2019
- [52] 加藤陽子, “それでも日本人は「戦争」を選んだ”, 朝日出版社, 2009
- [53] 河合雅司, “超高齢化日本の令和二四年問題”, 文芸春秋, 6月, P.270-279, 2019
- [54] 長浜浩明, “日本の誕生-皇室と日本人のルーツ”, ワック(株), 2019
- [55] 岩佐雄司, “国際条約集 2018”, 有斐閣, 2018
- [56] 文部省, “国體の本義・臣民の道”, 文部省呉 PASS 出版, 昭和12年
- [100] 渡辺惣樹=訳, “裏切られた自由”, 草思社, 2017;
- Freedom Betrayed: Herver's Scret History of the Second World War and Its Aftermath
- [101] 古事記, “古事記99の謎”, 古代ミステリー研究会, 彩図社, H26
- [102] 家村和幸, “古事記・日本書紀で分かった大和統一”, 宝島新書, 2018
- [103] 中西進, “古代史で楽しむ万葉集”, 角川ファイア文庫, H22
- [104] 公文書館の各種資料